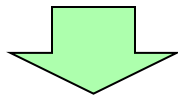


伊賀市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年10月)※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 伊賀流忍者の発祥地、松尾芭蕉の生誕地として知られ、上野城をはじめとする歴史的建築物が多く残る城下町。
- 中心市街地から大型店が移転・撤退、合わせて新規大型店の郊外への進出。若い世代の郊外流出、空き家・空き店舗の増加により空洞化が進展。



○歩行者・自転車通行量の減少

H7: 9,744人 → H19: 2,752人 (▲72%)

○商業活性化重点軸の小売商業年間販売額の減少

H6: 11,215百万円 → H19: 2,452百万円 (▲78%)

○コミュニティバス利用者の減少

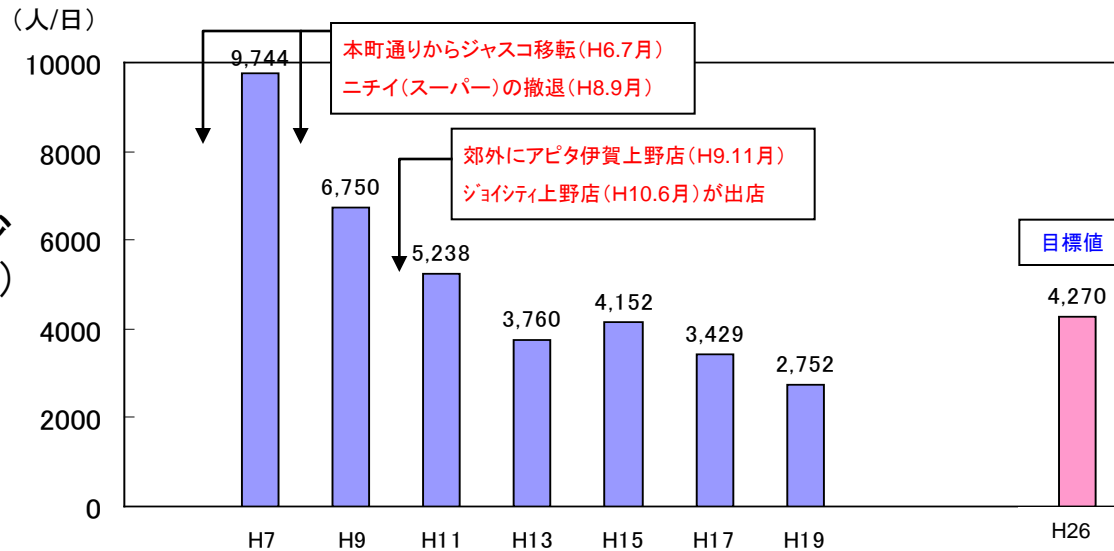
H18: 60,161人/年 → H19: 51,355人/年 (▲15%)

(過去5年のピーク)

【目標】

目標	指標	現況値(H19)	目標値(H26)
楽しく歩けるまちなみづくりと回遊性の向上	歩行者・自転車通行量(休日・4地点)	2,752人	4,270人
魅力と集客力のある店の創出	商業活性化重点軸の小売商業年間販売額	2,452百万円	2,460百万円
誰もが便利に移動できる交通手段の利便性向上	コミュニティバスの利用者	51,355人/年	52,000人/年

【歩行者・自転車通行量の動向と数値目標】



駅前再開発により都市福利施設等の集約を行うとともに、歴史ある城下町の風情を守りながら、町家を活かしたテナントミックス事業等を展開することにより、拠点施設の整備と楽しく歩けるまちなみづくりを進め、市民と観光客でにぎわう中心市街地の活気を取り戻す。

伊賀市中心市街地活性化基本計画の事業概要

魅力と集客力のある店の創出

○本町通り商業集積再生事業

町家の修理修景に対する助成や開業資金等を支援する空き店舗活用事業等により、伝統的なまちなみ景観を活かしながら、回遊の軸として5年間で20店舗のテナントを重点的に開発・誘致。



(現状の外観)

○松生家活用事業
歴史ある町家を伊賀焼や地産品のお総菜店などの複合商業施設に。

○上野文化センター活用事業

カフェに改築した建物(大正時代に建てられた国の登録有形文化財)を活用し、商店街と連携。



○商店街と大型店の連携

まちなかの商店と大型店(ジャスコ)で相互に利用できる電子マネーを導入。同時イベントや共同販売を併せて実施。

公共交通の充実

○コミュニティバスの最適ルートの検討、バスの増発(2便/日)、伊賀線との乗り継ぎを向上させるダイヤ改正を実施。



○駅周辺における交流の場の創出や市民の絵画や写真を展示するギャラリー列車の運行など、伊賀線(第三セクター)の利用促進を図る。



伊賀らしさを象徴する“本町通り”の町家とそこでの商売



○町家を活用した複合施設「まちやガーデン伊賀」活用事業



「町家あそび」をコンセプトにジャズコンサート等のイベントを継続開催。

○上野市駅前再開発事業



まちの玄関口として、商業施設をはじめ、生涯学習センター、保健センター、子育て支援センターなどを整備。観光情報の発信や伝統工芸の人材育成を図るコミュニティカレッジなども開催。

○「まちなか市」の開催



駅前のアーケード街や空き地・空き店舗を活用したイベントを定期的開催。周辺地域の農家との連携や起業家の発掘・育成を促進。

○既存の高齢者向け優良賃貸住宅の敷地に新たに伊賀物産店や市民の交流スペースを整備。隣接地では、毎週土曜日に地産品を販売する「あびす朝市」を実施し、地域住民や観光客のための賑わい拠点づくりを推進。

○まちなかの忍者体験
空き店舗(銭湯)を活用した忍者体験施設や忍者衣装に着替える「忍者変身処」(5カ所)を設置し、観光拠点からまちなかへ観光客の回遊を促進。



楽しく歩けるまちなみづくりと回遊性の向上